



令和2年9月14日発行

第 113号

事務局 〒169-0051 東京都新宿区
西早稲田2-18-23スカイエスタ507
TEL/FAX 03-6457-3921
E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp
<http://www.seishineisei.gr.jp/>

<目 次>

- 混沌の時代をどう生きるか—AIの進歩と精神保健—……………1
第36回大会はWeb会議の形式で行います……………2
大会特別企画(パネルディスカッション)「新型コロナウイルス問題」が
わたしたちの心にもたらしていること ご意見募集……………2
第36回大会(Web大会)のご案内……………3



混沌の時代をどう生きるか—AI の進歩と精神保健—

日本精神衛生学会第36回大会長 浮田徹嗣(横浜市立大学)

第36回大会を横浜市立大学で開催できることとなり、昨年は私なりに企画について思いを巡らせていました。大会テーマを決めることになり理事長の助言もあり「混沌の時代をどう生きるか」というテーマに決定しました。日本の社会の状況もバラ色とは言い難く、精神保健の問題についても予断を許さないものがあると感じたためです。

そのようにして時間が過ぎてゆくうちに新型コロナウイルスの感染が広がり収束の見込みも混沌としたまま、今大会はWebを利用しての開催となりました。

一方、現在AIの進歩も急速で、将棋ではプロの棋士の次の一手を予想することも可能となり、診療についてもAIの方が的確になるのもそう遠くはないと言われています。

なお、精神保健に関しては、検査結果のような客観的データではなく、表情や言語表現のように多義的で受け手との人間関係の中で解釈が様々に変わるような情報が多く、経験と感性を備えている者でないと的確な判断は難しいとされています(DSM-5も適切なアルゴリズムで処理されているわけではないとされています)。

また、新型コロナウイルスに関する情報も極端な正常性バイアスに基づくものもあれば、極端に悲観的な情報も発信され、多くの人が戸惑いを感じています。さらに、ひきこもりと呼ばれている現象についても人によって理解が違い、他の精神保健の課題についても同様です。

今回はWebというICT技術によっての開催であり、その中でICT時代の精神保健のあり方について考えてゆく大会となります。どのような大会になるか私自身想像できないでいますが、実行委員の方々などの努力で準備が着実に進んでいますので、多くの方々にご参加頂きたいと考えております。

第 36 回大会は Web 会議の形式で行います

日本精神衛生学会第 36 回大会実行委員長 黒岩 誠(明星大学名誉教授)

Web 会議元年を私たちも体験することになりました。常任理事会で承認されました。

ぜひ横浜市立大学金沢八景キャンパスにおいていただけたらと、可能性を検討してまいりました。金沢八景キャンパスは海に近く緑に囲まれ、静かで、おいでいただき、ゆっくりお過ごしいただきたい、海浜公園のような素敵なキャンパスです。しかし、コロナはまだまだ先の見通しを許しません。「これではだめ」はすぐわかるのですが、「これでいい」とは言い切れないのです。第 36 回大会の不安定要因は鵠のようにとらえどころがなく、結局、回避することが出来ません。試行錯誤を繰り返し、第 36 回大会を Web 開催とする目途を立てることが出来ました。初めての企画経験です。いろいろなエラーを想定し、大会実行委員会のメンバーや常任理事や理事長、学会事務局長とともに、Web 大会への参加・発表形式に近い形で Web 会議を開くなど、準備・リハーサルを行っております。このメリットは重鎮から若者まで初めての経験を遠慮することなく展開し、どちらかという環境的に若者に有利な状況でことが運び、当日の運営にもその成果が見え隠れするだろうという感触を持っております。新しい方法を素人が背負うには体験的な理解が欠かせません。確認作業が予定している期日ギリギリでも、どうぞ準備中の実行委員に微笑みの声援をお送りください。

大会特別企画(パネルディスカッション)

「新型コロナウイルス問題」がわたしたちの心にもたらしていること

ご意見募集

コーディネーター 影山隆之(大分県立看護科学大学、本学会理事長、大会顧問)

「新型コロナウイルス問題」は、わたしたちの生き方と心の健康にさまざまな影を投げかけています。でも、いったい誰にとって何が問題なのかを整理しなければ、これからどうすべきかを考えられません。そこで、さまざまな角度からこれらの影を拾い上げ、「心の健康」という切り口で整理して、これからのための問題提起ができないか、と考えてこのパネルを企画しました。

そこで皆さんにお願いです。この企画のために、自分のまわりで「こんな心の問題が起こった」「こんな困りごとが起こった」「このことは言っておきたい！」というエピソードを、メモ書きの形で大会ウェブサイトの「掲示板」に、できるだけたくさん貼り付けてください。

パネリストがこれを事前に読んで、大会当日はそれぞれの視点から、心の健康についてオンラインで語り合います。それはいったいどういう現象なのか、その背後にある本質的な課題は何かということ整理して、今後のための問題提起をしようという企画です。オンライン討論に視聴者が自由参加することはむしろ嬉しいので、言いたいことを前もってお伝えいただければと思います。大きな問題でも小さな課題でもけっこうです、そこから智恵のエッセンスを絞り出したいと願っていますので、どうかふるってご参加ください。

第 36 回大会(Web 大会)のご案内

1. Web 大会の概要

高下 梓（松本短期大学、副大会長）

本学会初の試みとなる Web 大会（11 月 7 日（土）～8 日（日））の概要をご案内いたします。
コロナ禍のなか、心のケアに日々従事しておられる全国の皆さまに安心して集っていただける大会となるよう、実行委員一同、心を込めて準備しております。ご参加の皆さまには様々な面でご協力を賜ることと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大会公式ホームページには、事前参加登録・チラシ・プログラムの掲載をはじめ、最新の詳しい内容を随時ご案内しております。ぜひご覧ください（<https://seishin36th.jimdofree.com/>）。

①Web 大会は、ホームページからの資料・動画の閲覧や、Web 会議システム Zoom を用いて行います。会場で直接お会いすることができませんので、諸連絡や大会参加にはメール・インターネット・Zoom を利用できる通信環境が必要です。あらかじめご準備ください。

②抄録の印刷・配布（郵送）は行いません。開催前に PDF 版の抄録を大会公式ホームページに掲載しますので、事前にご確認のうえ、必要に応じて印刷をお願いいたします。大会参加証・領収書は、事前登録時にご登録いただいた住所へ郵送いたします。

③大会には、特設ホームページからご参加いただきます。「練習ページ」を設けて、操作を確認できるようにいたします。公開時期が参りましたら、事前参加手続がお済みの方にのみ、特設ホームページの URL とパスワードをご連絡いたします。また、操作ガイド付きの「ポケットプログラム」を鋭意準備中です。事前に郵送しますので、お早めにお申し込みください。

特設ホームページのイメージ（※実際と異なる場合がございます）



④プログラムの特徴に応じて、PDF の閲覧（配布資料・ポスター資料など）、動画の視聴（講演など）、Zoom（ディスカッション、質疑応答など）のいずれかを選んだり、組み合わせたりして行われます。どのプログラムも、特設ホームページからご参加いただけるようにします。

一般演題以外のプログラムは、おもに Zoom を利用し、演者によっては資料掲載を併用します。ただし「動画・資料の閲覧」などと組み合わせる場合がありますので、各プログラムの所定時間すべてが Zoom への参加になるとは限りません（講演の動画視聴が 60 分、Zoom での質疑応答が 30 分など）。各プログラムの詳細や Zoom の開始時間が決まりましたので、大会公式ホームページ上にてご案内いたします。なお、オンライン交流会（Zoom、無料）につきましては、希望者のみに参加方法をメールにてご案内します。

プログラムのスケジュール（予定）

11月7日（土）	11月8日（日）
10:00- 開会式、事務連絡	10:00-11:30 自主シンポジウム「コロナ禍における大学生を対象とした新たな談話室支援の試み」中島清貴、永井尚志
10:30-11:30 大会長講演「混沌の時代をどう生きるか—AIの進歩と精神保健」浮田徹嗣	10:30-12:00 自主シンポジウム「東日本大震災への心理的支援が10年目を迎えた今、考えるべきこと」中村 有ほか
12:00-13:00 理事会	（※総会は大会会期中には開催いたしません）
13:30-15:00 鼎談「若者のひきこもりをどう支援していくか」高塚雄介、斎藤暢一郎ほか	13:00-15:00 大会特別企画（パネルディスカッション）「『新型コロナウイルス問題』がわたしたちの心にもたらしていること」影山隆之、阿部 裕、小泉典章、有馬 斉、平田 茜
13:30-15:00 自主シンポジウム「人と人のかかわりが繋ぐ社会への架け橋」松村舞花、青木智絵、武笠純名、平田 茜、高下 梓	15:00-16:30 自主シンポジウム「津久井やまゆり園殺傷事件の考察（続）」喜多祐荘ほか
17:00-18:00 オンライン交流会	16:40- 閉会式（土居健郎記念賞授賞式、次回大会のご案内等）
一般演題（ポスター発表） 資料閲覧および質問受付：11月7日（土）～11月15日（日）、質問への返答：～11月23日（月・祝）	

- ⑤一般演題（ポスター発表）の閲覧と質問受付の期間は、11月7日（土）～15日（日）までといたします。質問内容は大会事務局でとりまとめて発表者へ送付し、質問者への回答は、発表者から個別にメールで回答していただきます（11月23日（月・祝）まで）。

2. 参加登録

松村舞花・武笠純名（実行委員）

●大会事前参加登録について

日本精神衛生学会第36回大会 公式ホームページ内の『Web 大会 参加登録』より大会事前参加登録または、演題（ポスター発表）申し込みのお手続きをお願いいたします。Webからの申込みができない場合は、「事前参加受付 FAX 用紙（PDF）」をダウンロード・印刷のうえ、FAXにてご登録ください。

●大会参加費のお振込みについて

※振込先・振込に関するお願いを大会公式ホームページに記載しております。
必ずご確認の上、お振込みをお願いいたします。

※会員の皆様に、学会誌『こころの健康 Vol.35 No.1 2020』とともに送付させていただいた『大会事前参加費の振込用紙』は、振込口座の都合により、ご使用になれないことが判明いたしました。お手数をおかけいたしますが、ATMで振込口座番号などを直接ご入力ください。

※本大会は、Web開催に伴い、事前に参加登録をいただいた方のみご参加いただけます。参加登録は、①大会事前参加登録および②大会参加費のお振込み（学会員 4,000 円、非会員 5,000 円、学部生・大学院生 2,000 円）をもちまして、参加のお手続きの完了とさせていただきます。

●各種申込手続きの期間の延長について

大会開催方式の変更に伴い、各種申込手続きの期間を延長することといたしました。
延長後の期日は下記の通りです。

- ①一般演題（ポスター発表）申し込み 締め切り 8月31日（月）→**9月18日（金）**
- ②抄録原稿提出 締め切り 9月30日（水）→**10月9日（金）**
- ③大会事前参加登録 締め切り 10月9日（金）→**10月25日（日）**

※オンライン交流会（無料、事前予約制）は、出席登録者のみに参加方法をご案内します。
事前参加登録時に出欠席のご都合を登録してください。

- ④大会参加費お振込み 期限 10月19日（月）→**10月30日（金）**

3. 大会への参加方法

高木英一・藤原光太郎・平田 茜（実行委員）

Web 大会には、特設ホームページからご参加いただきます。

- ①特設ホームページは、会場へお越しの場合となるべく近い感覚で操作できるようにします。
操作や参加の仕方に関する詳細なご案内は、「ポケットプログラム」をご覧ください。

- ・「大会受付」（日本精神神経学会専門医単位が必要な方のための出席登録フォームなど）
- ・「大会プログラム」（講演やパネル討論などの資料や動画の閲覧、Zoom への参加）
- ・「ポスター発表」（ポスター発表資料の閲覧、質問の投稿）

- ②一般演題（ポスター発表）の募集は、ポスター発表のみとさせていただきます。

例年と申し込み方法や発表方法が異なりますのでご注意ください。

※一般演題の申込期限を 9 月 18 日（金）まで延長しました。ふるってお申し込みください。

【ポスター発表の流れ】

- ①大会 HP より 演題申し込み
- ②大会事務局より発表受付の連絡
- ③抄録原稿、発表資料のメール提出（原則、PDF 化したデータを送っていただきます）
- ④特設ホームページに発表資料を掲載（閲覧限定、ダウンロード可のいずれか）
- ⑤参加者からの質問への回答（特設ホームページを使用してお送りいただいた質問を大会事務局でとりまとめ、発表者へお送りします。質問者への回答は、発表者より個別にメールで行っていただきます。）

4. オンライン交流会のお誘い

永井尚志・中島清貴（実行委員）

今大会が Web 開催になり、新型コロナウイルス感染防止のため懇親会も「オンライン交流会」へ変更いたしました。

11月7日（土）17:00～Web 会議システム（Zoom）を使って、皆様と初めてのオンライン大会開催についての感想などをざっくばらんに話しできればと思っています。オンライン交流会の参加費は無料です。食べ物や飲み物は、各自ご用意のうえでお気軽にご参加ください。

なお司会進行の都合上、事前に参加者人数を把握したいと考えております。事前参加登録時に出欠席をご登録ください。万一、変更（出席への変更、キャンセル）する場合は、11月4日（水）までにご連絡ください。ご不便をおかけしますが何卒よろしくお願いいたします。

5. 横浜についてのご案内

例年、大会 2 号通信では開催地のご案内をいたしますが、今年度は横浜で皆さまをお迎えすることができません。代わりに実行委員の「横浜のおすすめ」や「横浜の思い出」をご紹介します。新型コロナウイルス感染症が収束した折には、ぜひお越しください。



11 月の横浜市立大学

横浜の名物という訳ではなく今年の話題ですが、西条八十作詞・古関裕而作曲の横浜市立大学校歌は聴いて頂きたい曲です。作家の馳星周、映画監督の横浜聡子、歌手の平井堅も本学出身です。(浮田)

北海道から東京へ出た学生時代、横浜は憧れの都市でした。海岸通りの近くの大ホールでコンサートをしたのが初体験だったかも。開かれた空気感が魅力ですね。(影山)

みなとみらいの夜景(万国橋)



山手の西洋館

神奈川育ちの私は、病院実習や仕事で横浜を毎週訪れていました。年に数回、散歩して新しい景色をみつけるのが楽しみでした。四季を感じられる西洋館、ヨコハマイングリッシュガーデン、三溪園がおすすめです。(高下)

山手、「赤い靴」、ユーミンの「海を見ていた午後」。バタ臭い和の心、哀愁。海、ガントリークレーン、大きな貨物船、向こうに三浦半島。二人の肩がギリギリ触れないように歩いてみてください。(黒岩)

私の横浜の思い出といえば、横浜カクテルクルーズです。横浜はバー発祥の地と言われていて、その横浜で鎗を削る有名バーが客船いっぱいに出店するというカクテル好きとしては夢のような時間です。(永井)

横浜では、観光名所である赤レンガ倉庫付近で様々なイベントが催されます。その一つにオクトーバーフェストがあります。青空の下でのビールは格別！昼から飲んだくれていたことは良い思い出です(中島)

立場が変わり、一緒に行く相手も変わりましたが、定期的に訪れる食欲を満たすための中華街への衝動旅行はずっと変わりません。そこは今もお気に入りの場所であり続けています。(高木)

横浜のおすすめは、「横浜中華街」です。人の多さとお店の数に圧倒されつつもどのお店も活気に満ちていて時間を忘れて楽しめる場所です。お腹も心も満たされる幸せな空間です。(松村)

横浜にはよく遊びに行っていました。八景島シーパラダイス、中華街で食べ歩き、コスモワールドの観覧車。素敵な場所がたくさんある横浜には、その分思い出があります。冬の赤レンガ倉庫がおすすめです。(武笠)

幼少の頃、横浜で育ちました。記憶にあるのは、両親が連れて行ってくれた大きな公園です。自分が親になり、子どもとこどもの国へ行き、見覚えのある景色と幼少の記憶とがつながり感動したのを覚えています。(藤原)



ヨコハマイングリッシュガーデン

横浜みなと博物館には月 2 回ほど、真っ白なセイルをひろげた帆船日本丸が現れます。学生時代に見た日本丸は、21 世紀の港に不思議と馴染んでいました。近くに赤レンガ倉庫などもあり、お勧めです。(平田)